

岩手県工業技術研究推進会議 食品技術部会議事録		(実施日) 平成16年10月27日(水)
(テーマ名) 県産大豆加工特性調査 (中間評価)		
委員	質問・意見	回答
B委員	全体の生産高は5000トンと説明があったが、青丸くんは何トンか？	青丸くんの生産量は約100トン。
	反収が減少している理由は？	平成14および15年の天候不順と転換畑の増加のためと思われる。
	刈り取り時期を成熟期より前にできないのか？	コンバイン収穫が主であるので成熟後1週間が限界。農研センターを通じて生産者に指導している。
A委員	岩手由来種は収量が少なく、おいしくないのか？	極端に収量が低い、あるいはおいしくないということはない。ただし、より良いもの(新品種)を求める声は多い。
	近年、消費者の健康志向が強い。青丸くんは味や栄養成分での特徴は無いのか？	味はプレーン。特殊成分の分析は行っていない。
	工業技術センターの仕事なので成分的なところを追求すべきでは？	検討する。
E委員	イソフラボンが多いのか？	特に多いとは聞いていない。
	播種期や刈り取り時期に対する生産者の要求はあるのか？	特にない。
F委員	目視の色調の基準とパネラーは？	「直接見て判別できる」ことを基準とした。パネラーは4～5名。
G委員	加熱に対する退色のデータは？	まだ、試験を行っていない。実需者と協議して検討していく。
C委員	平成16年の青丸くん作付予定面積が北上で0(ゼロ)の理由は？	平成14および15年と不作が続いたため断念した模様。